

平成 27 年度第 3 回
嬉野地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 27 年 10 月 27 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第2回新高校設置準備委員会報告まとめ	1
資料 2 めざす学校像について	3
資料 3 新高校の学科構成について	5
資料 4 新高校設置準備委員会設置要領	14
資料 5 嬉野地区新高校設置に向けた検討体制	16
資料 6 嬉野地区新高校設置準備委員会委員構成	17
参考資料 校舎制について	18

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第2回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 7月27日(月) 10時～11時45分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 7月27日(月) 15時～16時40分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 7月28日(火) 15時～16時40分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 8人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 7月31日(金) 15時～16時40分 伊万里商業高校 会議室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 厳木高校	平成27年 8月17日(月) 9時30分～11時 厳木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人 太良高校 山口校長

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」について、今ある教育目標などを足し合わせるだけでなく、新しい学校にプラス ができないか。 ・ 新高校がこの地区で果たす役割を確認して、担わせるものを明らかにするとわかりやすい。 ・ 2校を再編する中で、特色や魅力につながるものを精選し、新しい学校に受け継がせることが重要である。 ・ 多様化する社会に対応できるよう、いろいろなコースを作って人材を育成してほしい。
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校に子どもたちが誇りを持つことは大切なので、「郷土を愛し、母校に誇りを持つ」というようなフレーズを入れてほしい。 ・ 選挙権年齢が18歳に引き下げられるので、社会の一員としての自覚に関する文言は必要ではないか。 ・ 田澤先生の理念である「人格の完成をめざし人間教育の振興」という文言は残すべきである。 ・ 新高校の学科構成については、現在の産業構造や地域産業も考慮する必要がある。そういうデータが欲しい。

地区	主な意見等
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の内容として、1つは知・徳・体のバランス、2つ目は佐賀の良さを学び、地域と連携する学校であること。これらに加えて、地元企業のグローバル化等に対応し、国際社会に貢献できるような人材育成という視点も大事である。 ・ 「地域」と「グローバル」という2つの視点を入れてほしい。 ・ 「めざす学校像」の示し方としては、箇条書きで示した方がわかりやすくてよい。 ・ 新高校の学科は、専門学科として残すべきである。
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす学校像」の3つの案は、どれも基本的に「これからやっぴいこう」という姿勢が示されている。 ・ 「めざす学校像」は、学校の存在意義、この地域にこの学校が存在する意義というような、大きなものであり、これを明らかにした後で教育目標などを作っていくことになる。 ・ 「めざす学校像」案の、「至誠」は伊万里農林高校に、「礼節」は伊万里商業高校に由来する言葉である。これに両校共通の「勤労」という言葉がある。固い言葉ではあるが、歴史を感じさせる言葉なので、これらの言葉を生かしたい。 ・ 学科について話をする際、地域ニーズを把握するため、地域の産業界の方をこの委員会に呼んで意見を聞いてはどうか。
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太良高校では、担任や副担任の他に、学習支援員や地域連携の支援員、学校設定科目に関わっていただいている特別非常勤講師など、外部の方の関わりが多い。学校だけでは難しい面があり、地域との関係は大事だと思う。 ・ 「めざす学校像」としては、ポイントを箇条書きにした案の方が、具体的に良い。 ・ 「めざす学校像」に、現在の校訓や三省も生かして欲しい。 ・ 不登校経験や発達障害のある生徒など、可能性を伸ばせなかった子どもたちを地域と一緒に育てる、そういうふうにより一人一人の生徒を丁寧に育て、社会に出していくという姿勢が伝わる「学校像」であれば、と思う。

資料2 めざす学校像について

めざす学校像 (案)

心身ともに健全で、誠実かつ豊かな心を持ち、幅広い知識と磨かれた技術を有する人材を育成する学校。

グローバルな視野と郷土を愛する心を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する学校。

一人ひとりの個性を伸ばし、未来へ躍動する人材を育成する学校。

両校の校訓である「希望 練磨 誠実」「立志躍動」の精神を継承していく。
調和のとれた「知 徳 体」を育み、生徒一人ひとりの個性を伸ばしていくことを大切にしていく。

「地域愛」のもと、グローバルな思考で地域社会に貢献する人材を育て、地域と共に歩んでいく学校であることを大切にしていく。

参考資料

第2回嬉野地区新高校設置準備委員会で示した案

第1案

地域との連携による学校づくり

地域の学校や人々との関わりを深め、学校の特色を活かした連携を図り地域に根ざした信頼される学校をめざす

生徒が主体となった学校づくり

主体的に学校行事に関わり、心身ともに健全で、自ら考え自ら行動できる姿勢を育て、活気のある学校をめざす。

学科の特色を生かした学校づくり

学科の特色を生かした多様な生徒の進路に対応できる体制づくりを促進し、時代の変化に柔軟に対応できる確かな力を身につけた人材を育成し、特定分野で実績NO.1をめざす。

第2案

- 1 一人ひとりの個性をのばし、進路実現ができる学校
- 2 学習により得た知識や技能をいかし、社会に貢献できる学校
- 3 豊かな心を育てて、地域に愛され、地域とともに歩む学校

第3案

心身ともに健全で、基礎的かつ専門的な知識や技能によって、時代の変化に柔軟に対応して社会へ貢献できる人材を育成し、郷土愛に溢れ、地域との堅固な信頼関係で結ばれている学校。

これまでの嬉野地区新高校設置準備委員会ででの主な御意見

めざす学校像について

- ・現在ある学校の特色を生かしながら、充実した人材育成を行う。
- ・多様な進路保障や学科の連携を行う。
- ・「知・徳・体」に触れるような言葉は必要。
- ・「郷土を愛する心」、「地域との連携」は必要。
- ・「国際的視野」、「グローバル化」などの言葉は必要。
- ・形式としては箇条書きがすっきりしている。

資料3 新高校の学科構成について

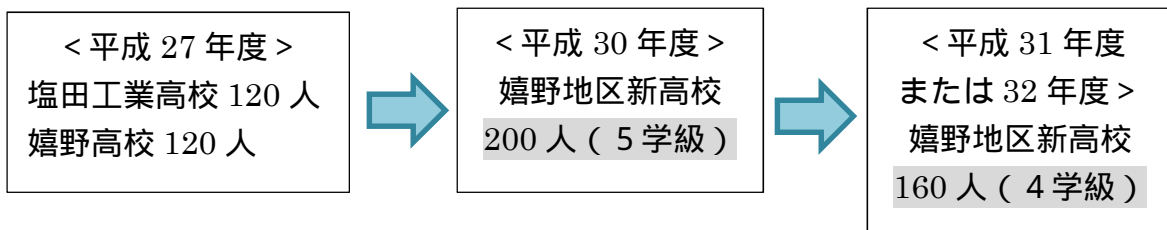
- 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方
 「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

<平成27年度現在の学科の状況>

学校	大学科	小学科	募集定員 (人・学級)	備考
塩田工業高校	工業科	機械科	40人・1学級	2年次より 「専門コース」 「進学コース」
		情報技術科、 電気科	40人・1学級	
		建築科	40人・1学級	
嬉野高校	総合学科	-	120人・3学級	情報ビジネス系列、観光・ 流通系列、人文科学系列、 文化教養系列、社会福祉系 列の5系列

2 新高校の学科構成について

(1)募集定員の見込



(2)学科構成のパターン

平成30年度					平成31年度または32年度				
パターン	大学科	小学科	募集定員	学級数	パターン	大学科	小学科	募集定員	学級数
パターン1	工業科	機械科	40	1	パターン1①	工業科	機械科	40	1
		情報技術科、電気科	40	1			情報技術科	40	1
		建築科	40	1		総合学科	—	80	2
	総合学科	—	80	2	パターン1②	工業科	機械科	40	1
パターン2	工業科	機械科	40	1			電気科	40	1
		情報技術科、電気科	40	1	総合学科	—	80	2	
パターン3	工業科	機械科	40	1	パターン1③	工業科	機械科	40	1
		情報技術科、建築科	40	1			建築科	40	1
パターン4	工業科	機械科	40	1	パターン2	工業科	機械科	40	1
		電気科、建築科	40	1			情報技術科、電気科	40	1
パターン5	総合学科	—	120	3	パターン3	工業科	機械科	40	1
		—	200	5			情報技術科、建築科	40	1
					パターン4	工業科	機械科	40	1
							電気科、建築科	40	1
					パターン5	総合学科	—	80	2
							—	160	4

※パターン1については、①～③のいずれか。

参考資料

1 各学科の内容

塩田工業高校

【機械科】

“ 実践重視のものづくり ”

あらゆる産業の基礎となる機械技術。機械科ではものづくりに必要な設計技術や加工技術を学習します。

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、製図、情報技術基礎、機械設計

（2年次）実習、製図、機械設計、機械工作、原動機、電気基礎

（3年次）課題研究、実習、製図、機械設計、原動機 機械工作、原動機、自動車工学

は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

【情報技術科】

“ つくる・つたえる・つながる ”

コンピュータは、私たちの生活に欠かせないものになっています。情報技術科では単に「使う」技術を学ぶのではなく、コンピュータやネットワークを「作る」技術を学習します。

平成2年に新設

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、情報技術基礎、電気基礎

（2年次）実習、電気基礎、アプリケーション技術実習（学校設定科目）

電子回路、通信技術、プログラミング技術

（3年次）課題研究、実習、製図、プログラミング技術、コンピュータシステム技術、

コンピュータ応用実習（学校設定科目）

は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

【電気科】

“ 人々の生活を支える電気 ”

電気は現代社会を支える必要不可欠な技術です。電気科では、基本的な学習から電気エネルギーの供給や利用など、技術者としての幅広い学習をします。

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、情報技術基礎、電気基礎

（2年次）実習、電気基礎、アプリケーション技術実習（学校設定科目）

電子機器、電子技術、通信技術

（3年次）課題研究、実習、製図、電力技術、電子計測制御

は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

【建築科】

“ 夢と満足の居住デザイン ”

建築物に必要なことは、快適に生活できること、地震や台風、火災、腐食に強いことです。建築科ではこれらを満たす建築物を計画、設計、施工（工事）、使用までの過程を学習します。

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、製図、情報技術基礎、建築構造

（2年次）実習、製図、建築施工、建築構造、建築構造設計、建築法規

(3年次) 課題研究、実習、製図、建築計画、 建築構造設計、建築施工、建築法規
は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

<全学科共通選択科目>

(2年次) 子どもの発達と保育(家庭科専門科目) 情報メディアデザイン(美術専門科目)
学校設定科目: 漢字の世界(国語) 身近な化学物質とその性質(理科)

(3年次) 生活と福祉(家庭科専門科目) フードデザイン(家庭科専門科目)
絵画(美術専門科目) 学校設定科目: 現代史(地歴科)

嬉野高校

【総合学科】

必履修科目一覧

(1年次) 国語総合、世界史A、数学、数学A、科学と人間生活、体育、保健、美術 / 書道、
英語表現、コミュニケーション英語、家庭基礎、社会と情報、産業社会と人間

(2年次) 国語総合、現代社会、生物基礎、体育、保健

(3年次) 日本史A / 地理A / 政治・経済、体育

選択科目一覧

系列名	科目群の特色	総合選択科目				自由選択科目	
		基礎科目		基礎以外の科目		教科	科目
		教科	科目	教科	科目		
情報ビジネス	商業の科目や情報に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、高度情報化社会に貢献できる人材を育成する。	国語	国語表現	商業	電子商取引 マーケティング 商品開発 財務会計Ⅰ 原価計算 ビジネス計算※	国語	古典基礎※
		数学	総合数学※			公民	政治・経済
		外国語	コミュニケーション英語Ⅱ				
		商業	簿記 情報処理 ビジネス情報				
観光・流通	販売・サービスの基礎的・基本的な知識と技能を習得し、サービス産業に貢献できる能力と態度を養う。観光についての知識理解を深める。	国語	国語表現	商業	簿記 商品開発 広告と販売促進 情報処理 ビジネス情報	外国語	中国語入門※
		数学	総合数学※			商業	ビジネス基礎 コンピュータグラフィックス※
		外国語	コミュニケーション英語Ⅱ				
		商業	観光一般※ 観光ビジネス実践※ 観光地理※				
人文科学	普通教科・科目を中心に学習し、現代社会に適応できる基本的な知識を習得する。四年制大学や短期大学、高等看護学校に進学を希望する生徒が対象となる。	国語	古典B 現代文B	地理歴史	日本史B 地理B	福祉	社会福祉基礎 福祉一般※
		数学	数学Ⅱ 数学B 総合数学※	理科	生物		
		外国語	コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ				
文化教養	食物・被服・保育・語学など幅広い知識と技能を習得する。社会人としての必要な資質・教養を養成し、豊かな人間性を育てる。	国語	国語表現	国語	実践国語※		
		数学	総合数学※	芸術	美術Ⅱ 書道Ⅱ		
		外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	外国語	中国語Ⅰ※ 中国語Ⅱ※		
		家庭	子どもの発達と保育 ファッション造形基礎 フードデザイン	英語	英語理解 時事英語		
社会福祉	福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術の理解を深め、将来、地域社会において福祉活動の推進に寄与する能力と態度を養う。	国語	国語表現	福祉	介護過程 介護総合演習 介護実習 こころとからだの理解		
		数学	総合数学※				
		福祉	社会福祉基礎 介護福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術	英語	英語理解		

注1 ※は学校設定科目である。

注2 教科「家庭」は主として専門学科において開設される教科である。

注3 教科「英語」は主として専門学科において開設される教科である。

2 総合学科における学級数と系列数の相関関係

		系列数									計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学級数	1		5	1	1						7
	2		1	17	11	4					33
	3			10	29	11	2				52
	4			2	15	28	11	3	1		60
	5	1		1	3	25	11	4	1		46
	6			2	8	16	25	12	3	1	67
	7				1	9	7	3	3		23
	8			1		1	1	2	1	1	7
計		1	6	34	68	94	57	24	9	2	295

対象は総合学科を持つ全国の公立高等学校で平成27年度入学生に対する状況である。

(富山県教委資料により作成)

3 鹿島・藤津地区の学科の状況

(1) 配置

鹿島・藤津地区の学科及び募集定員(640人 16学級規模)

普通科 280人(7学級規模)

(鹿島高校 200人、太良高校 80人)

専門学科 240人(6学級規模)

(工業科:塩田工業高校 120人、商業科:鹿島実業高校 80人、家庭科:鹿島実業高校 40人)

総合学科 120人(3学級規模)

(総合学科:嬉野高校 120人)

【工業科、総合学科の全県配置】



(2) 鹿島・藤津地区の高校別志願状況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島 藤津 地区	鹿島	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
	太良	0.36	0.34	0.47	0.51	0.58	0.98	0.75	0.85	1.20	0.74	0.74	1.14	0.76	0.75	0.89	0.66	0.84	1.15
	塩田工業	0.87	1.02	1.20	0.71	0.71	0.90	0.71	0.81	1.00	0.74	0.74	0.99	1.00	1.03	1.16	1.00	1.02	1.04
	鹿島実業	1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	嬉野	0.73	0.84	1.05	1.00	1.09	1.20	1.20	1.13	1.25	1.01	1.08	1.23	0.97	0.86	0.90	0.76	0.78	0.90
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

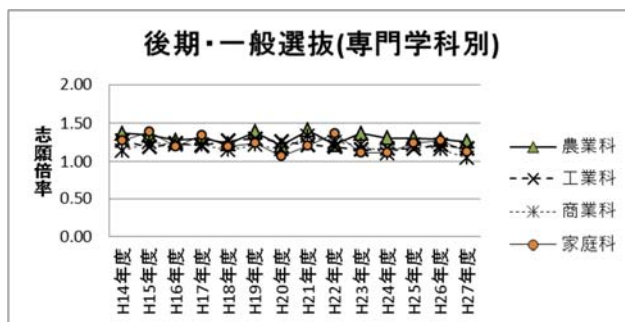
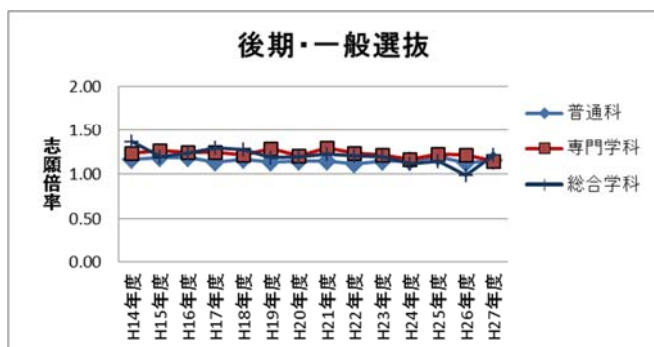
※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

理数科及び芸術科は普通科に含む。



【参考2 工業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
工業 くくり募集 はその他 に含む		1.23	1.22	1.19	1.11	1.10	1.16	1.19	1.20	1.17	1.18	1.14	1.17	1.25	1.21	1.22	1.17	1.17	1.17
	機械系	1.65	1.45	1.12	1.46	1.25	1.12	1.41	1.35	1.13	1.59	1.48	1.32	1.52	1.40	1.25	1.35	1.33	1.27
	電気系	1.05	0.97	1.29	1.00	1.03	1.41	1.10	1.04	1.04	0.94	0.98	1.12	1.03	0.98	1.06	0.91	0.89	1.02
	電子・情報系	0.88	1.07	1.46	0.73	0.72	1.26	0.85	1.06	1.26	0.81	0.86	1.17	1.33	1.27	1.45	1.13	1.24	1.26
	建築系	0.64	0.66	1.04	0.81	0.91	1.35	1.11	1.18	1.17	1.27	1.09	1.08	1.31	1.22	1.24	1.28	1.20	1.12
	土木系	0.96	1.03	0.94	0.85	1.08	1.03	1.20	1.33	1.42	1.08	1.11	1.21	0.88	1.11	1.26	1.08	1.13	1.14
その他	1.02	1.13	1.24	0.80	0.83	0.95	1.45	1.33	1.37	0.86	0.98	0.86	0.99	1.09	1.14	1.14	1.19	1.40	

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

(3) 鹿島・藤津地区の中学生の進路状況

鹿島・藤津地区の中学生の進路状況を分析すると、約8割が県内公立高校に進学しており、普通科と専門学科がほぼ4割ずつである。地域としては約7割の生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

鹿島・藤津地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別 支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公私立				
平成23年 3月卒	615	56	15	4	13	15	718
	85.7	7.8	2.1	0.6	1.8	2.1	
平成24年 3月卒	620	73	17	6	11	12	739
	83.9	9.9	2.3	0.8	1.5	1.6	
平成25年 3月卒	638	76	10	10	7	23	764
	83.5	9.9	1.3	1.3	0.9	3.0	
平成26年 3月卒	604	60	22	3	9	17	715
	84.5	8.4	3.1	0.4	1.3	2.4	
平成27年 3月卒	586	51	19	3	7	17	683
	85.8	7.5	2.8	0.4	1.0	2.5	
5年集計	3,063	316	83	26	47	84	3,619
	84.6	8.7	2.3	0.7	1.3	2.3	

塩田工業高校及び嬉野高校への通学状況

ほとんどが、地元からの入学者である。

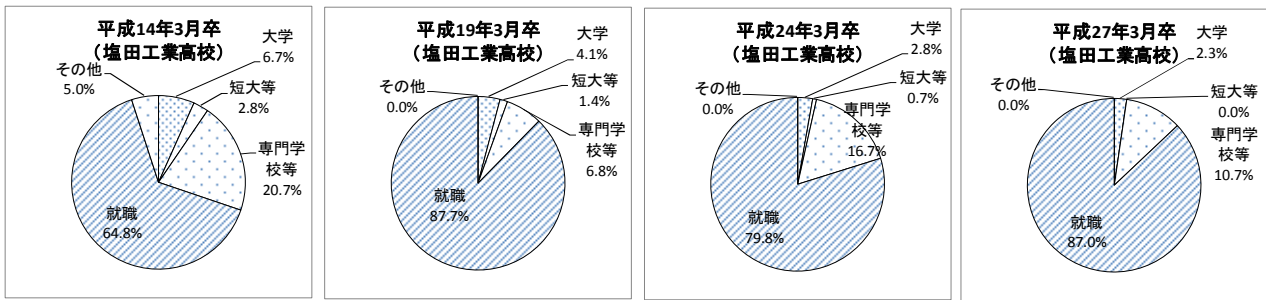
	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部	単位：%	
					うち嬉野市	県外等
塩田工業高校	0.0	1.4	0.1	98.2	29.8	0.3
嬉野高校	0.0	0.2	0.0	99.3	54.0	0.7

注) 平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

(4) 塩田工業高校と嬉野高校の高校卒業後の進路状況

工業科

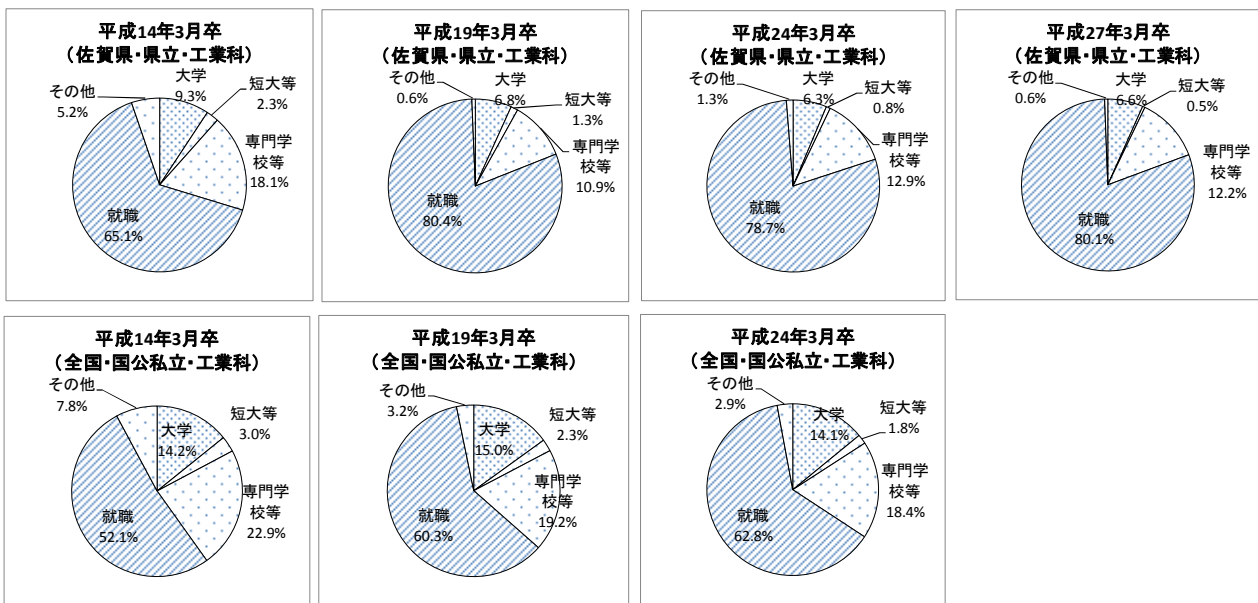
【塩田工業高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の工業科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・工業科

下段：全国・国公私立・工業科



<主な進学先>

(私立) 福岡大学、九州産業大学、西九州大学

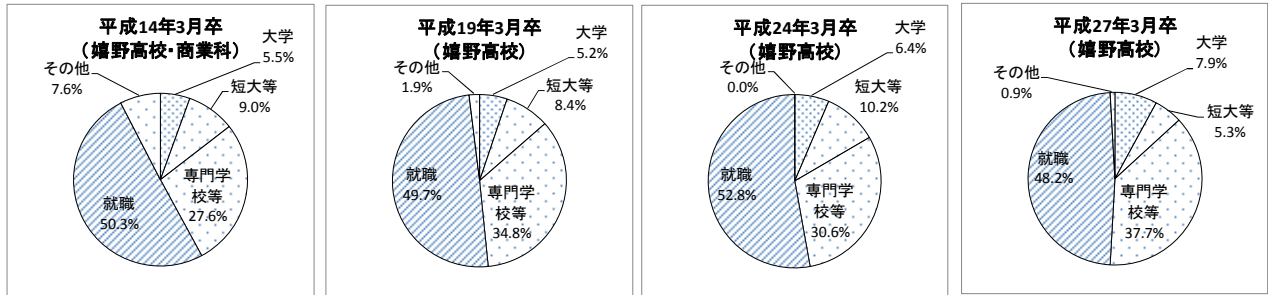
(専修学校等) 佐賀コンピュータ専門学校、九州国際情報ビジネス専門学校、緑生館、鹿島看護学校

<主な就職先>

日産自動車、JFE スチール、トヨタ自動車、豊田鉄工、アイシン化工、ジェイテクト、西島製作所、ダイハツ工業、マツダ、新日鐵住金八幡製鐵所、九州製鋼、九電工、佐川急便九州支社、フランソア、東亜工機、友朋会、森鉄工、祐徳薬品工業、九州住電精密、ジェイエイビバレッジ佐賀、鹿島機械工業、中山鉄工所、佐賀シール工業、不二コンクリート工業、デリカフレンズ佐賀工場、佐賀県農業協同組合、名村造船所、塩田環境開発、友桝飲料、織田病院、戸上デンソー、五光建設、祐徳自動車、宮園電工、エスティ工業、キタック、ソクト、警視庁、陸上自衛隊、航空自衛隊

総合学科

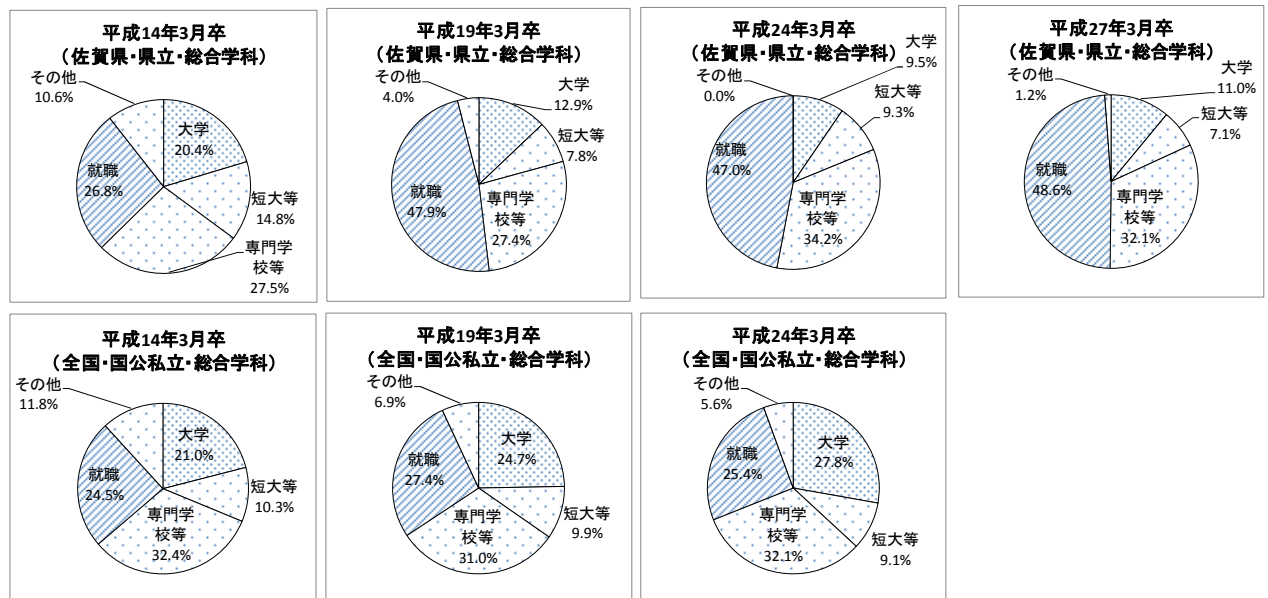
【嬉野高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の総合学科卒業後の状況】

上段：佐賀県・県立・総合学科

下段：全国・国公立・総合学科



<主な進学先>

(国公立) 佐賀大学、熊本大学、長崎県立大学

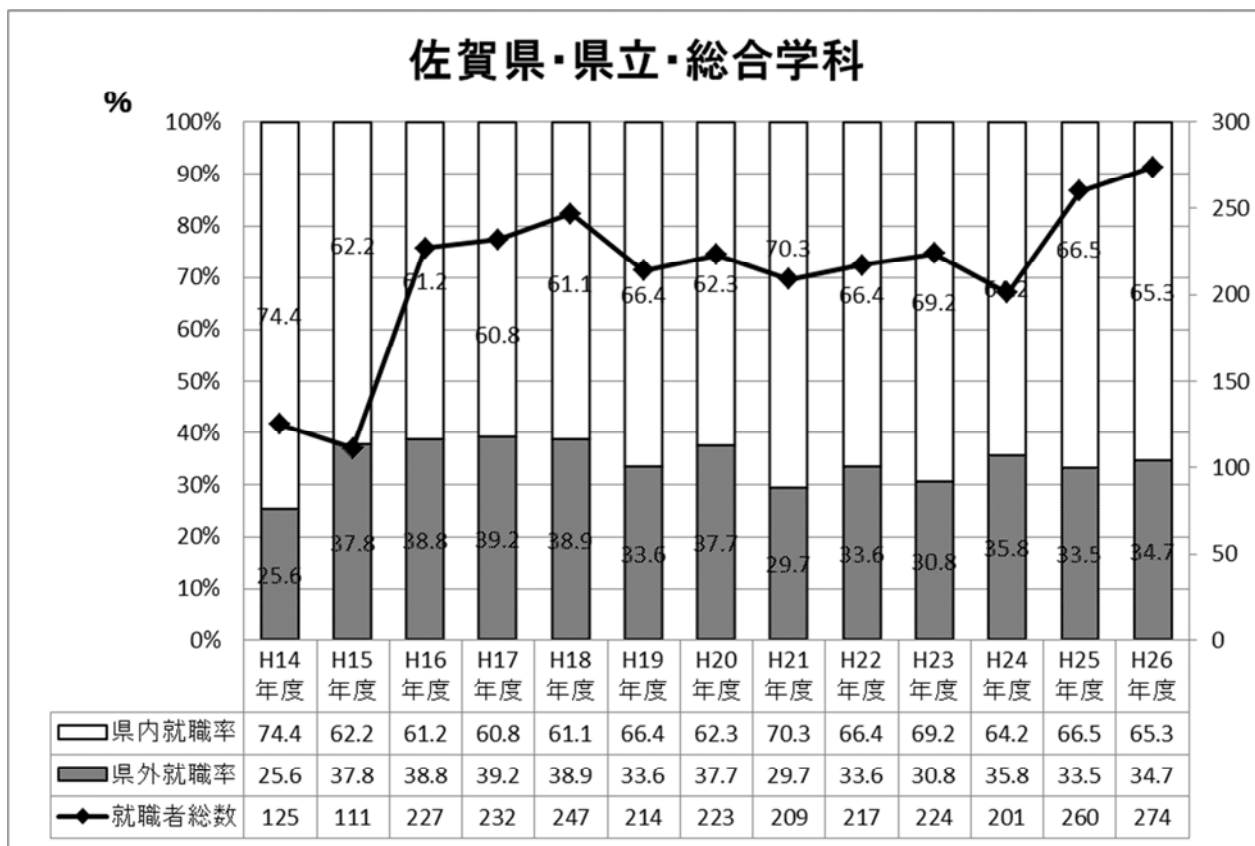
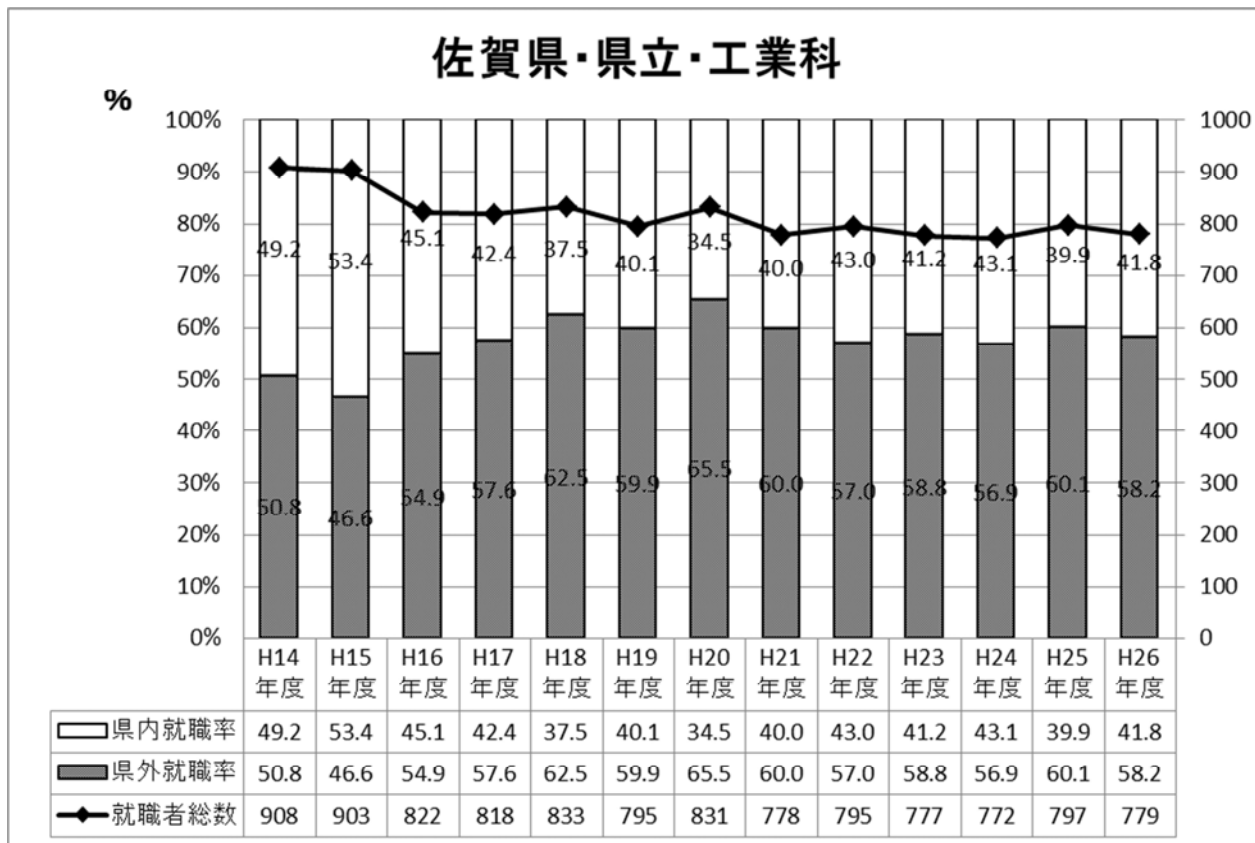
(私立) 西九州大学、福岡大学、九州共立大学

(短期大学) 西九州短大、佐賀女子短大

(専修学校等) 九州国際ビジネス専門学校、トヨタ名古屋自動車大学校、福岡美容専門学校、麻生リハビリテーション大学校、久留米リハビリテーション学院、長崎リハビリテーション学院、武雄看護リハビリテーション学校、緑生館

<主な就職先>

佐賀西信用組合、祐徳薬品工業、祐徳稲荷神社、和多屋別荘、ホテル華翠苑、肥前通運、祐徳自動車、タケックス、佐賀セロリ、佐賀シール工業、村岡屋、友朋会嬉野温泉病院、白石共立病院、社会福祉法人済昭園、すみれ園、Aコープ佐賀、山崎製パン、東京急行電鉄、東京エアポートレストラン、エスラインギフ、札幌かに本家、美々卵、セラミックセンサ、マツダ、イズミ、昭和金属工業、JR九州、にしけい、長崎キャノン、陸上自衛隊、航空自衛隊



新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設 置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関する事
 - 二 新高校の施設・設備に関する事
 - 三 新高校への円滑な移行に関する事
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要する事

(組 織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会 議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

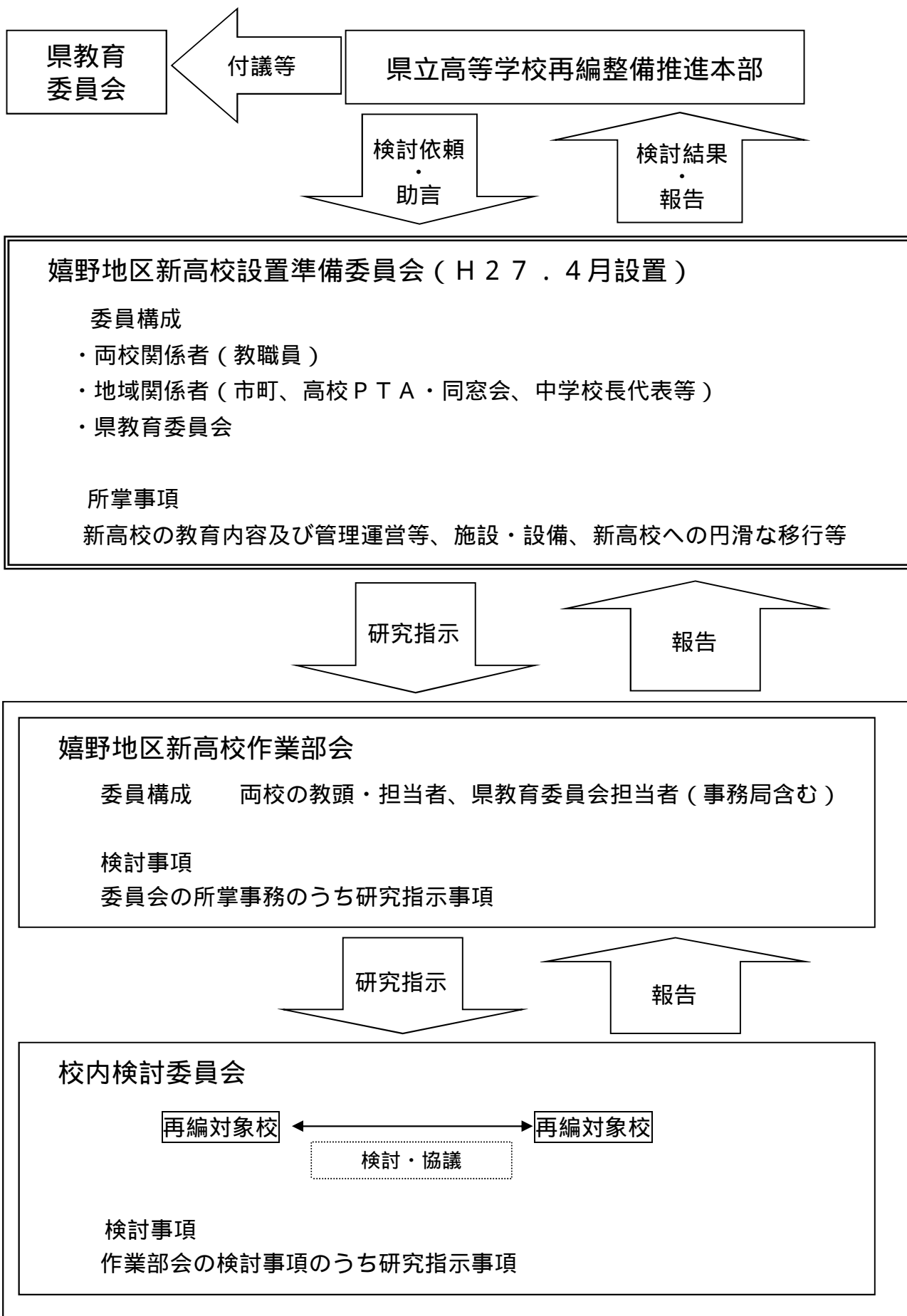
- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補 足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



資料6 嬉野地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	塩田工業高等学校 校長	藤井 伸幸	委員長・学校関係者			
2	嬉野高等学校 校長	峰松 藤一郎	副委員長・学校関係者			
3	塩田工業高等学校 教頭	津川 久博	学校関係者			
4	嬉野高等学校 教頭	池田 豊昭				
5	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市	市関係者		
6	嬉野市副市長	中島 庸二				
7	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市	市関係者		
8	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市			
9	塩田工業高等学校 同窓会代表	西村 利則	地元関係者			
10	嬉野高等学校 同窓会代表	平野 國廣				
11	塩田工業高等学校 P T A代表	石橋 蔵人				
12	嬉野高等学校 P T A代表	太田 和章				
13	嬉野市立塩田中学校長	永田 由美	中学校関係者			
14	嬉野市立嬉野中学校長	陣内 弘文				
15	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者			
16	教育政策課長	八谷 幸浩				
17	教職員課長	福地 昌平				
18	学校教育課長	松尾 敏実				
19	保健体育室長	三上 智一				
20	教育支援課長	源五郎丸 靖				
21	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章				
22	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	塩田工業高等学校教諭	見浦 浩徳				
	嬉野高等学校教諭	梶原 理世				
		滑川 喜生				
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄				
県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎					

校舎制に関する検討課題

(1) 行事について

合同実施が望ましい行事

【例】式典、学校祭、修学旅行、高校総体壮行会、芸術鑑賞会、全校集会、学年集会等
行事の際の移動

【例】式典の場合は大型バスをチャーター（往復）し、一方の学校で実施（入学式・卒業式は生徒＋保護者）。終日あるいは半日実施の行事については、各自で会場へ集合

(2) 部活動について

部活動種目の見直し 新高校校内委員会で検討

活動場所の割り振り

移動生徒数をシミュレーション

部活動の際の移動

【例】 ・ 放課後にバスを3往復（部活動開始・終了時とその中間）させる。
・ 活動場所が帰路にあるものは、自転車や公共の交通機関等で各自移動させる。
・ 平日の合同練習を週3日とし、その日はバスを運行する（高校総体、新人戦前などはこの限りでない）。

(3) 職員配置・会議の在り方について

管理職の配置

【例】 ・ 学校長は曜日ごとに、それぞれの校舎で勤務する。
・ 学校長は一方の校舎に常駐し、もう一方の校舎に副校長を配する。

校務分掌主任の配置

【例】 ・ 分掌主任は一方の校舎にまとめる。
・ 分掌主任と副主任をバランスよく両校舎に分散させる。
・ 両校舎それぞれに分掌主任を配する。

会議の在り方

【例】 ・ 職員会議等は、どちらか一方の校舎において合同で実施する。
・ 職員会議等は、それぞれの校舎で実施する。（その場合、全管理職はどちらの会議にも出席する）。
・ 年度当初、学校祭、高校入試等に関する会議は合同、それ以外は校舎単独で実施する。
・ 運営委員会も職員会議に準じる。

(4) その他

- ・ 校務分掌の見直し
- ・ 校時の検討
- ・ 校舎間の連絡

《参考資料》他県の校舎制の事例

串本古座高等学校（和歌山県）

1 沿革

H20 串本高校（普通科、国際教養科）と古座高校が統合

古座校舎については、H20 年の統合の際、分校舎の存続期間についての明言が避けられたことから、今後数年の動向次第では分校舎の廃止・完全統合の可能性もある。

2 学科と募集定員・後期選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
串本校舎	普通科	120	0.87	285		
古座校舎	普通科	40	1.05	181		

（H26 和歌山県全体の倍率 全日制 1.01 一般選抜）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 9.2 km】

(1) 串本校舎（旧串本高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町串本 1522

設置学科

- ・普通科（情報コース、文理コース）

(2) 古座校舎（旧古座高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町中湊 370

設置学科

- ・普通科（国英数習熟度別展開）

4 卒業後の状況（平成 25 年度）

校舎	大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
	国公立	私立	国公立	私立			
串本	/	/	/	/	/	/	/
古座	0	10	0	0	0	14	/

(1) 主な合格先

- ・ 私大・その他 大阪学院大、大阪商業大、岡山理科大、同志社女子大 等

(2) 主な就職先

- ・ データなし

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 9(9) 計 18(17) ()は古座校舎

6 職員数 4学級、160人/学年 - 教員数 47人

《学校概要》

- ・ 生徒減に応じた高校再編の一環として校舎制を導入。（再編統合は地域、同窓会、保護者等反対が多かった）
- ・ 職員数は教諭 34 人 + 常勤講師 3。内訳は串本校舎（3 学級）25+2、古座校舎（1 学級）9+1
- ・ 校長は串本校舎にすることが多いが、必要に応じて両校舎間を行き来。
- ・ 両校地に副校長はおらず、教頭が「校舎長」の肩書で代決。分掌主任は両校舎に配置。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、芸術鑑賞会のみ。入学式、卒業式、体育祭、文化祭、始業式、終業式はそれぞれ別々に実施。（入学式、卒業式、始業・終業式での校長の移動は、開始時間をずらして対応）。授業での生徒の移動は一切なし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、シャトルバス(20 数名乗り)を毎日県費で 3 往復運行（考査期間中は除く）。経費は約 640 万円、平成 27 年度からは約 1,250 万円になる予定。

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 芸術と家庭科の教員が、曜日ごとに各校舎間を移動。（出張扱い。時間割を工夫）

《その他》

- ・ 学校の一体感醸成のために、校歌・校章を新たに作り、制服を同一のものにした。
- ・ 古座校舎は少ない教員数ながら、数学・英語で習熟度別展開授業を実施している。（持ち時間数がかかなり多くなるので、教頭も授業を行う）

真庭高等学校（岡山県）

1 沿革

H23.4 岡山県立落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と岡山県立久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が合併統合。

2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
落合校地	普通科	80	0.45	58	59	68
	看護科	40	0.75	30	34	38
久世校地	生物生産科	35	1.17	29	34	33
	食品科学科	35	1.06	35	38	33

（H26岡山県全体の倍率 全日制1.16 普通科1.09 専門学科1.32）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 6.4 km】

(1) 落合校地（旧落合高校校舎）

住所 岡山県真庭市落合垂水 448-1

設置学科

・普通科、看護科、専攻科

(2) 久世校地（旧久世高校校舎）

住所 岡山県真庭市中島 143

設置学科

・生物生産科、食品科学科

4 卒業後の状況

(1) 主な合格先（過去5年間）

- ・ 国公 岡山大、静岡大、鳥取大、島根大、山口大 等
- ・ 私大・その他 中央大、立教大、京都産業大、立命館大 等

(2) 主な就職先

- ・ 日本郵政公社、真庭消防本部、事務、製造、販売サービス 等

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 6(5) 計 15(13) ()は久世校地

・両校地の合同チームで活動

6 職員数 4学科、5学級、190人/学年 - 教員数 50人（校長、講師除く）

《学校概要》

- ・ 3年前に再編整備により校地制を導入。（導入には同窓会の反対があった）
- ・ 岡山県では「校舎制」ではなく、「校地制」と呼びならわしている。
- ・ 教員数は50人（教諭46＋常勤講師4）。内訳は落合校地（28+3）、久世校地（18+1）
- ・ 校長は月水木が落合校地、火金が久世校地での勤務。
- ・ 両校地に副校長配置（校長不在の曜日の代決を行う）。教頭は落合校地に1名配置。
- ・ 分掌主任（課長）は年度ごとに校地間でローテーション（学年主任も含む）。
- ・ 両校地で同じ制服を採用している。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、入学式、卒業式のみ。（大型バスで落合校地に移動）
- ・ 今年から、合同行事として1年次に久世校地で農業体験を実施している（1日）。
- ・ 来年は、落合校地での看護体験を実施する予定。
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に2日間（月金）のみ送迎。県により予算化されている（72万円/年、38往復分） 実際は若干予算不足らしい

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭（普通教科は年により異なる）。時間割を工夫し、曜日で出勤する校舎を変わるようにしている。
- ・ 授業や部活動の移動の際は自家用車を使用。（出張扱い）

《その他》

- ・ 部活動の大会等は合同チームで出場。活動が活性化している。
- ・ 制度導入時は、生徒よりも教員が戸惑っていた。

阿蘇中央高等学校（熊本県）

1 沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

2 学科と募集定員・一般（後期）選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H27 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
阿蘇キャンパス	普通科	120	0.55	65	80	65
	総合ビジネス科	40	0.14	23	35	19
阿蘇清峰キャンパス	農業食品科	40	0.45	29	37	25
	グリーン環境科	40	0.15	18	19	9
	社会福祉科	40	0.00	20	14	23

（H27 熊本県全体の一般（後期）倍率 全日制 1.03）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 3.1 km】

(1) 阿蘇キャンパス（旧阿蘇高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2460
設置学科
・普通科、総合ビジネス科

(2) 阿蘇清峰キャンパス（旧阿蘇清峰高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 4131
設置学科
・農業食品科、グリーン環境科、社会福祉科

4 卒業後の状況（過去3年間）

(1) 主な合格先

- ・ 国公 九州大、広島大、東京学芸大、熊本大、佐賀大、鹿児島大 等
- ・ 私大・その他 同志社大、立命館大、帝京大、東海大 等

(2) 主な就職先

- ・ 自動車、電気、販売、福祉、ホテル、病院 等

5 部活動 体育系 17 文化系 15 計 32

6 職員数 5 学科、7 学級 280 人 / 学年 - 教員数 76 人

《校舎制高校の運営上、留意すべき点について》

- ・ 各校舎単位での運営体制をとる必要がある。そのため副校長が阿蘇清峰校舎に、教頭が阿蘇校舎に常駐し、校長は月・水・金は阿蘇清峰校舎、火・木は阿蘇校舎に常駐している（ただし、実際は校長は校舎間を移動していることが多い）。
- ・ 教務、進路、生徒指導、総務は各校舎にそれぞれ1人主任をおいている。
- ・ 両校舎合同での職員会議は年2回（年度当初、選抜試験前）だが、管理職、各分掌、各教科で、校舎間の連絡を密にしている。（週1回、合同の管理職の打ち合わせを行っている）
- ・ 時間割は一定条件のもと各校舎で作成した後に調整するが、摺合せが大変である。
- ・ 時間帯は同じだが、学科・コースによって総単位数（1週間当たりの授業コマ数）が異なっている。
- ・ 各学科が複数の類型を持ち、なおかつ総合選択制を実施しているため、選択科目等の関係でカリキュラムは複雑化する。

《生徒・職員の移動について》

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）、合同行事、部活動等である。
- ・ バス会社との打合せや連絡・調整等、生徒の移動に関する業務を専門的に行う担当者が必要である（主幹教諭が担当）。

生徒の移動手段

授業（総合選択制）	毎週火・木	中型バス	引率なし（バス乗降時の点呼のみ）
合同行事	不定期	大型バス	引率あり
部活動	毎日	自転車 ・ 徒歩	阿蘇校舎の生徒は送迎が多いため、徒歩移動がほとんど

- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ バスは年間計画をバス会社に提出して契約。変更分を含めて直近2ヵ月分の予定表を提出。変更については（事前に変更の可能性を連絡しておけば）当日朝まで対応してくれる。
- ・ バス使用料は県費（今年度1,400万程度）で、生徒負担は無し。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が30分程かけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 職員は、バスで引率する以外は各自で移動する。特に手当等は支給されない。
- ・ 両校舎を兼務する職員は例年3～4名（地歴科と芸術科）。移動のための時間割には配慮するが、曜日固定はしていない。
- ・ 職員会議や職員研修（両校舎合同）等、多くの職員の移動が必要な行事は、定期考査中の午後や長期休業中に設定している。
- ・ バス移動に要する時間は、点呼・乗車 移動 下車・点呼まで25分。その間、一方の校舎では清掃の時間を入れて対応している。

《合同行事の実施状況について》

- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）、宿泊研修（1年次）、体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）、修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年1回）と非常に多い。
- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。
- ・ 1年生の4月に宿泊研修、5月に体育祭と、年度当初に大きな合同行事を入れることで交流が広がり、学校としての一体感も醸成される。
- ・ 一時期合同行事が縮小されつつあったが、その重要性が認識され、昨年度からまた盛んに行われることとなった。

《諸業務について》

- ・ 合同の職員会議は年2回（再掲）。運営委員会も原則としてそれぞれの校舎ごとで行う
（阿蘇清峰校舎は副校長をトップとし、校長は参加しない）。
- ・ 分掌、教科の打合せは、基本的に電話とメールで行い、必要に応じて一方の校舎に出向く。
- ・ 学年の取りまとめとして、学年主任と副主任を別の校舎に置く。
- ・ 各種証明書は両校舎で発行できる（一部阿蘇校舎でのみ）。
- ・ 予算に関しては校舎ごとに積み上げたものを予算要求するが、必要に応じて校舎間で融通をつける。（事務長は阿蘇校舎常駐）

他県の校舎制の状況

※大津緑洋高校は平成26年2月、それ以外の高校は平成26年12月の調査

高校名	校舎間距離	合同行事・授業 (移動を要するもの)	生徒の移動手段等	教諭の移動状況	その他
岩手崎高校(宮城県) 岩手崎校舎 鷹沢校舎	6.7km	・入学式、卒業式、文化祭、球技大会、部活動	・各自で移動 ・バイク通学者が多いので、バイクあるいは路線バス(中高生は市内100円)を利用	・2校兼務は公民、物理、家庭、体育(各1人)の4人 ・週2日(曜日固定) ・通勤手当が支給	管理職は 岩手崎校舎:校長、教頭1人 鷹沢校舎:副校長1人
飛騨高山高校(岐阜県) 岡本校舎 山田校舎	2.1km	・入学式、卒業式、統一生徒会、学習成果発表会、総合選択授業(週2日)、部活動	・卒業式のみ貸し切りバスを利用(PTA費用) ・校外で実施する行事は現地集合 ・部活動、授業はバスを利用(朝夕各4台、昼1台) ・路線バスを契約、経費は年間約2,000万円(県費)	・2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人のみ ・週2日(曜日固定)	管理職は 岡本校舎:校長、教頭2人 山田校舎:副校長1人、教頭1人
和歌山北高校(和歌山県) 北校舎 西校舎	7.2km	・新入生歓迎会、観劇会、体育祭(校外の施設で実施) ・体育系授業(週2回)、部活動		・2校兼務は非常勤講師のみ ・部活動指導のための移動は出張扱い	管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
海南高校(和歌山県) 海南校舎 大成校舎 (併せて分校2、定時制1)	8.1km	・部活動以外は、年に1~2回の生徒会交流のみ	・各自で移動	・2校兼務はなし	・管理職は 海南校舎:校長、教頭1人 大成校舎:教頭1人 ・将来的に大成校舎が募集停止となる可能性が高い
串本古座高校(和歌山県) 串本校舎 古座校舎	9.2km	・部活動以外は、芸術鑑賞会のみ	・シャトルバス(20数名乗り)を毎日3往復運航 ・経費は年間約640万円(県費 来年度から経費倍増の予定)	・2校兼務は芸術(2人)家庭(1人)の3人 ・曜日固定 ・出張扱い	管理職は 串本高校:校長、教頭1人 古座高校:教頭1人 (教頭は「校長」として代決可)
京都八幡高校(京都府) 北キャンパス 南キャンパス	2.9km	・入学式、卒業式、体育祭、文化祭、マラソン大会、部活動	・各自で移動	・2校兼務はなし	管理職は 北キャンパス:校長、副校長2人、教頭1人 南キャンパス:副校長1人、教頭1人
井原高校(岡山県) 北校地 南校地	0.7km	入学式、卒業式、体育祭、始業式、終業式、講演会、部活動	・各自で移動(徒歩)	・2校兼務は国語、音楽(各1人)の2人のみ ・曜日固定なし	・管理職は 北校地:校長、副校長1人 南校地:副校長1人 ・校長は北校地3日、南校地2日
真庭高校(岡山県) 落合校地 久世校地	6.4km	・部活動以外は入学式、卒業式のみであったが、今年度から農業体験、来年度から看護体験を実施	・入学式、卒業式は大型バスを利用 ・部活動の移動は、週2日スクールバスを運行(それ以外の日は各校地で活動) ・経費は年間72万(県費)	・2校兼務は理科、芸術 ・曜日固定 ・出張扱い	管理職は 落合校地:校長、副校長1人、教頭1人 久世校地:副校長1人 ・校長は落合校地3日、久世校地2日、副校長は校長不在時の代決可
阿蘇中央高校(熊本県) 阿蘇キャンパス 阿蘇清峰キャンパス	3.1km	・入学式、卒業式、始業式、終業式、体育祭、文化祭、クラスマッチ、農業体験、必要に応じて学年集会、総合選択授業、部活動	・部活動は各自で移動 ・行事、授業(2・3年生各週1日)の移動は貸し切りバスを利用 ・経費は約700万円(県費 来年度からは経費大幅増の予定)	・2校兼務は地歴・公民、体育、芸術(各1人)の3人 ・曜日固定 ・手当は特になし	・管理職は 阿蘇キャンパス:校長、教頭1人 阿蘇清峰キャンパス:教頭1人
大津緑洋高校(山口県) 大津キャンパス 日置キャンパス 水産キャンパス	大津一日置 9.4km 大津一水産 1.6km 日置一水産 10.2km	・学習成果発表会、農業体験、航海体験、野球部1回戦全校応援、部活動	・部活動の移動はバス2台を運行 ・経費は年間約4,000万円(県費)	・業務はなし ・部活動、行事での移動は出張扱い	・管理職は 大津キャンパス:校長、副校長1人 日置キャンパス:副校長1人 水産キャンパス:副校長1人、教頭1人 ・校長は大津キャンパス3日、日置キャンパス、水産キャンパス各1日 ・副校長(校長格)が一部決裁可